

# 市長コラム

～市民協働社会を目指して～

Vol.36



## ★「SDGs」のための私たちの身近な取組「食品ロス削減」

前回のコラムでも「SDGs」について触れましたが、「SDGs」に掲げる17の目標達成のために私たちにできる身近で重要なことのひとつが「食品ロスの削減」です。

コロナの収束により会合や宴席が増え、提供されている料理が食べ残しや手付かずの状態で大量に残される状況をよく目の当たりにします。世界各地で子どもの貧困が叫ばれている中、一方では、会食等で大量の食料の廃棄処分が行われているという状況にいつもジレンマを感じます。

国の調査では、宴会等での食べ残しの量は、食堂やレストラン等の約4倍といわれています。食品ロス削減に向けて「子ども食堂」や「フードバンク」といった取組が行われていますが、宴会等での「食品ロス」を今一度考えなければならないと思います。宴会の際は「3010(さんまるいちまる)運動」を心掛けたら、余計なお世話かもしれませんが、料理の量やコースを安易に決めるのではなく、極力無駄を出さないように頼む側と提供する側が必要量を打ち合わせして決めるといった工夫も必要ではないでしょうか。

これから歓送迎会等の宴会が増える季節を迎えます。まずは一人ひとりの心掛けが大切ですので、日頃から「食品ロス削減」を意識していただくようお願いします。

なお「食品ロス」に限らずごみ減量化等について、いつでも市職員が出前講座に伺いますので、遠慮なく環境対策課にお問い合わせください。

## ★人口減少対策は「百年の計」

昨年公表された「国立社会保障・人口問題研究所」の将来推計によると、日本の人口は約50年後の2070年には現在の約1億2,600万人から3,900万人ほど減少し、8,700万人になると見込まれております。また、本市の場合、2050年には28,029人に減少し、高齢化率(65歳以上人口)は53.9%まで上昇すると見込まれています。

全国的に人口減少が進む一方、東京一極集中はますます加速し、地方における人口減少がより深刻さを増す中で、人口減少対策や持続可能な地域社会を作っていくためには10年先、20年先を見据えて考えなければなりません。



「北辰大学 新年を祝う会」の様子

地域の未来を担う子どもたちをどう育てていくかが今まさに問われており、そのために地域を挙げて取り組んでいくことが不可欠です。特に、子どもたちが「ここに住み続けたい」「いずれは戻って来たい」と思えるような愛着が持てるふるさとづくりを進めることが重要であると思います。

人の価値観や特性などの基礎的な人格形成は、10歳までに確立するといわれています。実際、私自身も思い返してみれば、10歳前後の幼い頃の経験や教えが、今でも考え方や行動の根底にあり、大人になっても生きていていと感じます。つまり、自我が目覚める前に形成された人格やアイデンティティは、その人の人生に大きな影響を及ぼすものといえます。

夏まつりでの「親子de立佞武多」や秋の「キッズフェスタ」など子どもたちが主役となるイベントや前回のコラムで取り上げた「南小っ子SDGsツリープロジェクト点灯式」のような子どもたちの純粋な「心」に訴える取組は、まさにこの考え方に通ずるものです。

核家族化が進む当地域においては、子どもたちの健全な人間性とふるさとを愛する心を育むため「地域全体で育てる」、もっと踏み込んで言えば「地域全体で扶養する」ことが非常に重要であると思います。

人口減少対策は一朝一夕で決してなし得ず、まさに「百年の計」によってなし得るものであり、将来に向けて持続可能な地域社会構築のためにも、できることは今からやっていかなければなりません。地域、家庭、学校、行政など社会全体が連携し、未来を担う子どもたちの「心」や「思い」を大切に育む取組を積極的に展開していきたいと思います。

## ★元気な高齢者の生涯学習のすすめ

先日「北辰大学新年を祝う会」および「ひばの樹大学閉講式」に出席させていただきました。

受講生の皆さんそれぞれ充実感と活力に満ち溢れるお顔を拝見して、大変頼もしく感じました。元気な高齢者が増えることは地域にとって大変重要なことです。市としても「健康長寿社会」を目指して、高齢者の交流や社会参加、健康づくりに向けた施策をより一層講じていきたいと思っています。



「令和5年度 ひばの樹大学閉講式」の様子